

2022年3月期

決算説明会

2022年5月9日

愛知製鋼株式会社

東証プライム 証券コード：5482

AICHI STEEL

つくるう、未・来を。

つくるう、素・材で。

Agenda

1. 2022年3月期 決算概要

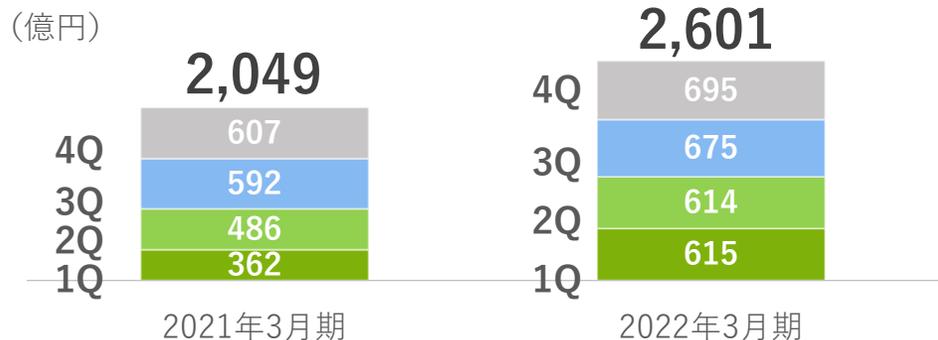
2. 2023年3月期 業績予想

※ 8月にIR 経営説明会を実施予定



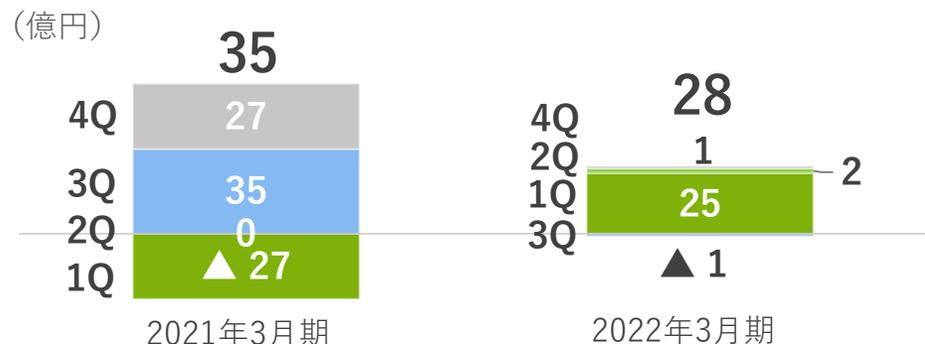
2022年3月期 決算概要

売上高 前期比：増収



鋼・ステンレス・鍛造品：数量回復
 スマート：過去最高の売上高

営業利益 前期比：減益



増益：販売価格値上がり・連結子会社の業績回復
 減益：購入品価格の値上がり

カンパニー別概況

(前期比)

鋼	数量回復・購入品の高騰	増収・赤字拡大
ステンレス	数量回復・購入品の高騰	増収・前期並み
鍛	国内外ともに数量回復	増収・増益
スマート	電子部品の数量増加	増収・増益

業績予想との差異

既公表値 (3/22) に対して、**増収・増益**

(億円)

	既公表値 (3/22)	2022年3月期	差異
売上高	2,600	2,601	+1
営業利益	20	28	+8

半導体不足などによる大きな需要変動や鉄スクラップ・エネルギーなどの購入品価格高騰など、先を見通しづらい経営環境に全社一丸で対応

2022年3月期の経営環境と影響

		鋼カンパニー	ステンレスカンパニー	鍛カンパニー	スマートカンパニー
半導体不足などによる 需要の変動		自動車向け減少	—	自動車向け減少	電子部品 減少 磁石 減少
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急な需要変動に合わせた迅速な稼働体制見直しなど 				
購入品価格 の高騰	サーチャージ 対象	鉄スクラップ	—	—	金・銅
	サーチャージ 対象外	合金鉄・購入鋳片 電力・ガス	合金鉄・電力・ガス	←	ネオジム
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 原単位（生産量あたり使用量）等は改善が進展 ・ 売価反映（ベース値上げ打ち出し）ただし、効果の大部分は22年度に持ち越し 			

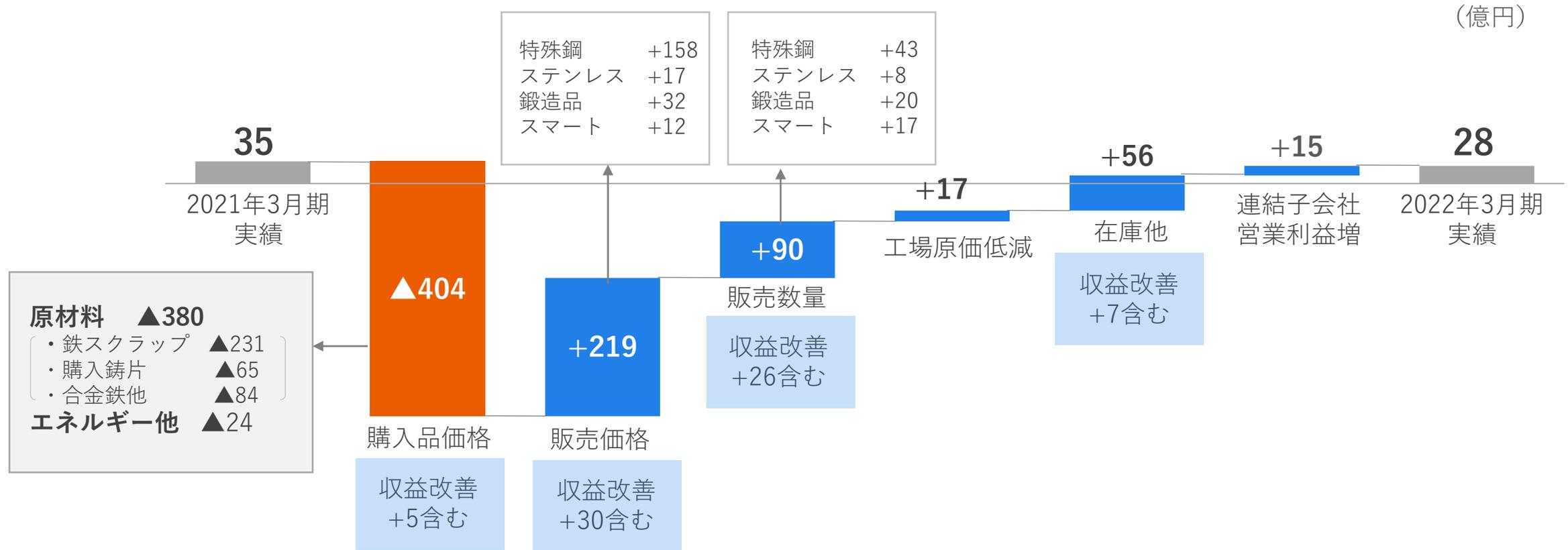
前期比 売上高552億円増収 営業利益 7億円減益

(億円)

		2021年3月期	2022年3月期	増減	増減率	既公表値 (3/22)	増減
連結	売上高	2,049	2,601	+552	+27%	2,600	+1
	営業利益	35	28	▲7	▲21%	20	+8
	利益率	1.7%	1.1%	▲0.6%		0.8%	+0.3%
	親会社株主に帰属 する当期純利益	30	9	▲21	▲69%	3	+6
	利益率	1.5%	0.4%	▲1.1%		0.1%	+0.3%
単独	売上数量 (千t)	944	1,146	+202	+21%	1,144	+2

2022年3月期 営業利益増減分析

購入品価格の高騰による大きなコストアップがあったが、販売価格、販売数量、工場原価低減、連結子会社の営業利益などの改善により黒字確保



購入品価格の値上りに対し全社一丸で各種収益改善策を実施

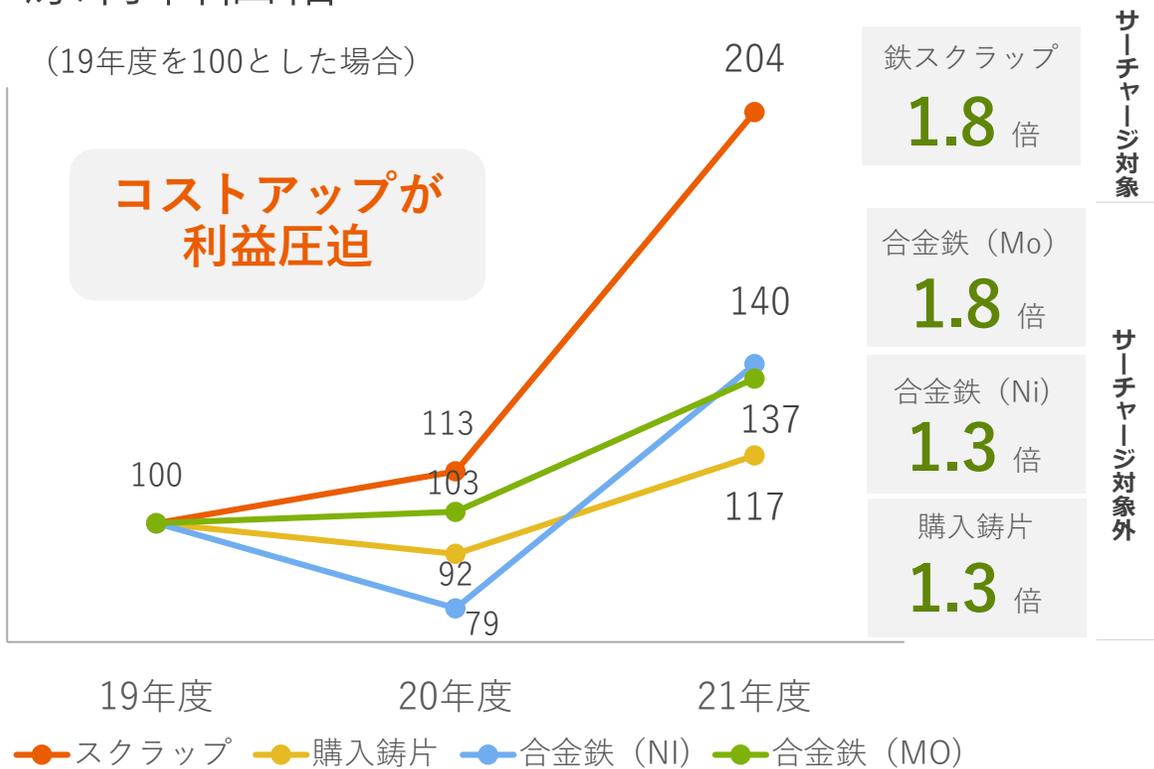
鉄スクラップだけでなく、あらゆる購入品価格が大幅に高騰

原材料価格

<20年度比 21年度>

(19年度を100とした場合)

コストアップが
利益圧迫



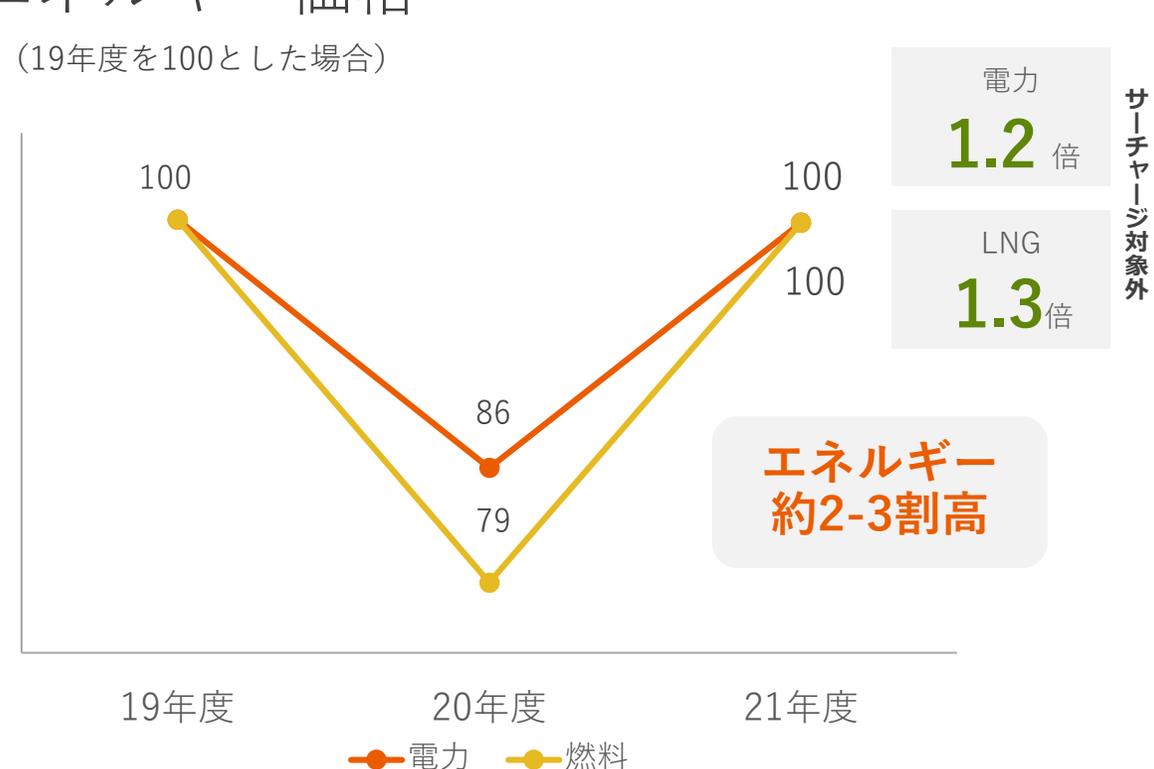
鉄スクラップ	1.8 倍	サーチャージ対象
合金鉄 (Mo)	1.8 倍	サーチャージ対象
合金鉄 (Ni)	1.3 倍	サーチャージ対象外
購入鋳片	1.3 倍	サーチャージ対象外

エネルギー価格

<20年度比 21年度>

(19年度を100とした場合)

エネルギー
約2-3割高



電力	1.2 倍	サーチャージ対象
LNG	1.3 倍	サーチャージ対象外

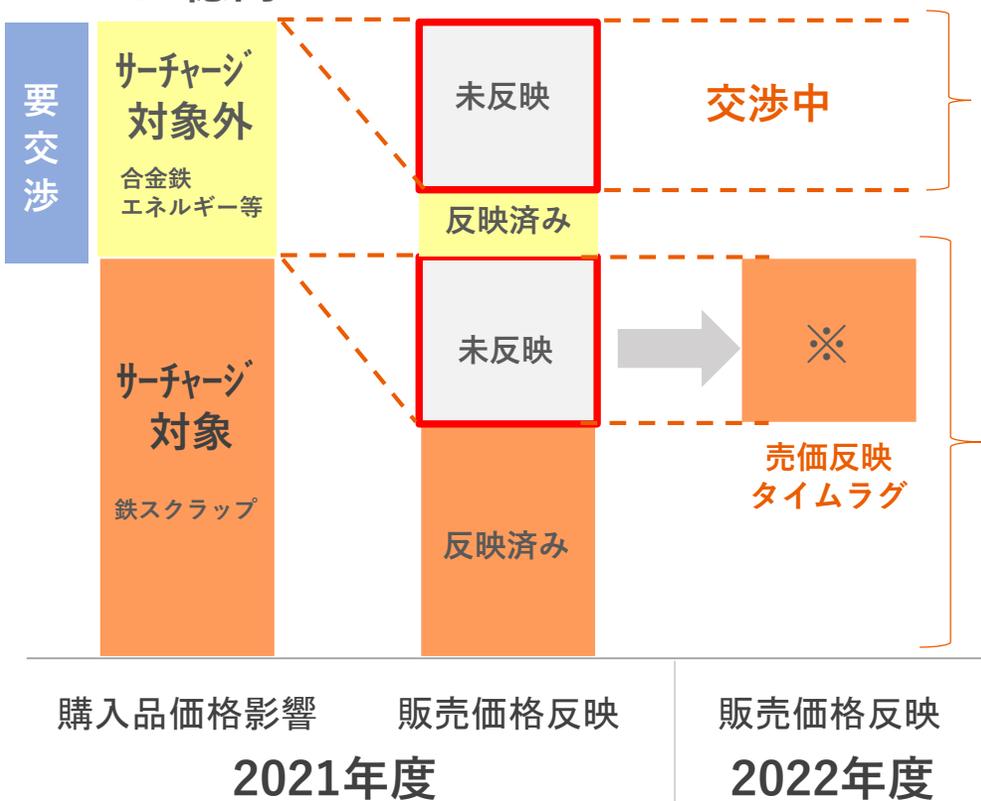
鉄源(鉄スクラップ・購入鋳片) のハイブリッド化などコストミニマム調達を実現

2022年3月期 購入品価格と販売価格の状況

あらゆる購入品価格の高騰や旺盛な需要へ対応するために、自助努力で吸収できない部分についてベース価格値上げを打ち出した

2021年度 購入品価格と販売価格の状況

404億円



サーチャージ無

サーチャージ対象外の資源やエネルギー価格の高騰に対してベース値上げを打ち出した（11月）

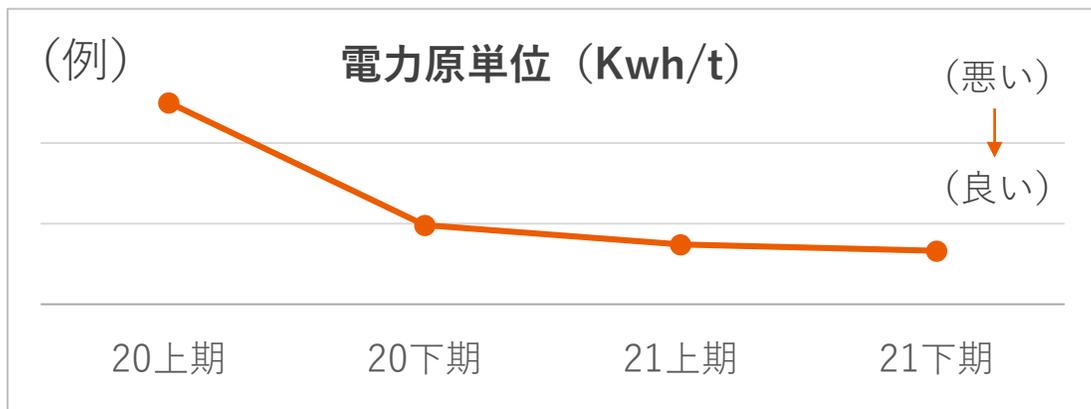
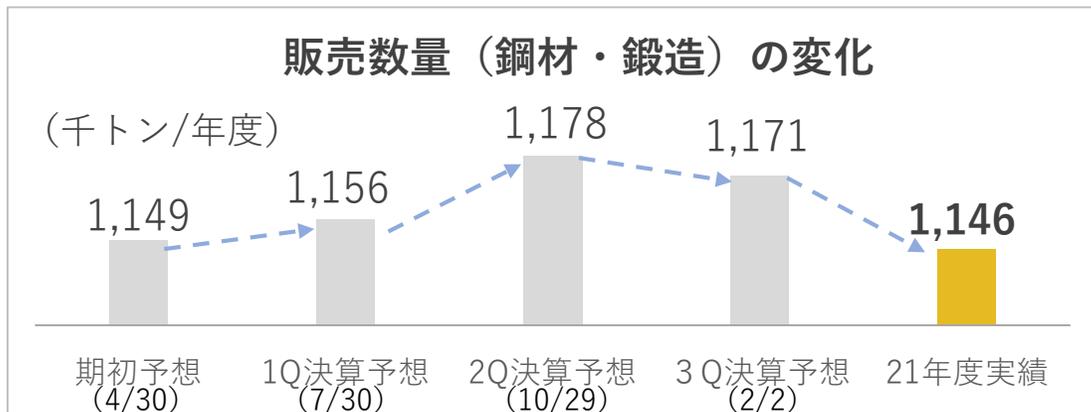
（21年度に打ち出したベース価格値上げの**大半は22年度に持ち越し**）

サーチャージ有

※ タイムラグによる未反映部分（約100億円）は**22年度にズレ込む**

→ サーチャージ反映期間の短縮（タイムラグ抑制）についてお客様への理解活動を開始した

限量経営による変化への柔軟な対応と原単位改善を中心とした原価低減によりモノづくりの実力は向上し、事業収益基盤を強靱化できた



主要顧客の上下に激しい需要変動

限量経営

お客様との密な情報交換によるフレキシブルな生産を実施した

モノづくりの実力を上げる原単位管理

原単位改善

生産量あたりの使用量を下げる活動で実力の底上げが進展した

2021年度 前期比 **17億円**の原価低減を実現

2022年3月期 カンパニー別売上高・営業利益

鋼カンパニーの赤字拡大により、全社で前期比減益
 スマートカンパニーは、売上高・営業利益が過去最高で計画を上回る成長

	売上高			営業利益				
	2021年 3月期	2022年 3月期	増減	2021年 3月期	2022年 3月期		増減	
					営業 利益率	営業 利益率		
鋼カンパニー	682	995	+313	▲22	▲3.4%	▲65	▲6.6%	▲42
ステンレス カンパニー	327	363	+35	24	7.5%	24	6.8%	▲0
鍛カンパニー	860	1,030	+170	19	2.2%	43	4.2%	+24
スマート カンパニー	154	189	+34	6	4.4%	17	9.5%	+11
その他	24	22	▲2	8	32.0%	7	34.9%	▲0
合計	2,049	2,601	+552	35	1.7%	28	1.1%	▲7

2022年3月期 カンパニー別営業利益増減分析

鍛カンパニー・スマートカンパニーは前期比増益、ステンレスカンパニーは前期並みを確保
 鋼カンパニーは、購入品価格高騰による減益要因が大きく前期比大幅な減益

(億円)

	21年3月期 営業利益	販売 数量	販売 価格	購入品 価格	原価 他	連結 子会社	22年3月期 営業利益	備考
鋼カンパニー	▲22	+43	+207	▲334	+35	+5	▲65	主原料である鉄スクラップ・合金鉄・購入鋳片価格が高騰
ステンレス カンパニー	24	+8	+17	▲51	+22	+5	24	主原料であるニッケル・クロム 価格が高騰
鍛カンパニー	19	+20	+32	▲53	+18	+7	43	販売数量の回復が利益に寄与
スマート カンパニー	6	+17	+12	▲15	▲2	-	17	売上高・営業利益が過去最高

急激な需要変動にはフレキシブルに生産体制を見直し、また原価低減活動では

原単位管理の強化で『モノづくりの実力を向上』してきたのに加え

あらゆる購入品価格の高騰が止まらない中で、販売価格の値上げを打ち出してきたが、
大きな減益要因を挽回することができず、前年同期比 **増収・減益**



次期は、スクラップの高騰継続に加え、サーチャージ制でない

購入品価格の高騰が見込まれ、**今期以上に厳しい経営環境**が予想される

※ 通期業績予想にて内容と取り組みについてご説明いたします

2023年3月期 業績予想

前期比 売上高529億円増収 営業利益 18億円減益

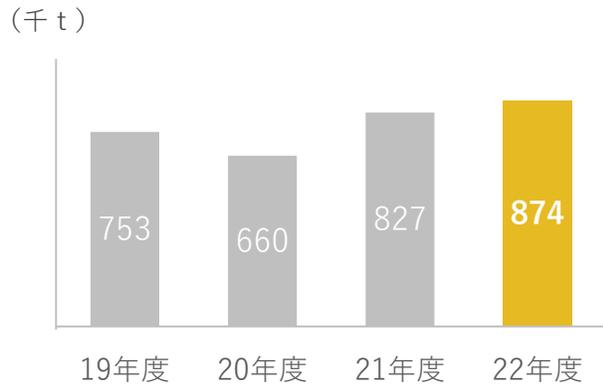
(億円)

		2022年3月期 (日本基準)	2023年3月期 (IFRS)	増減	増減率
連結	売上高	2,601	3,130	+529	—
	営業利益	28	10	▲18	—
	利益率	1.1%	0.3%	▲0.6%	
	親会社株主に帰属 する当期純利益	9	0	▲9	—
	利益率	0.3%	0%	▲0.3%	
単独	売上数量 (千t)	1,146	1,207	+61	+5.3%

販売数量（単独）

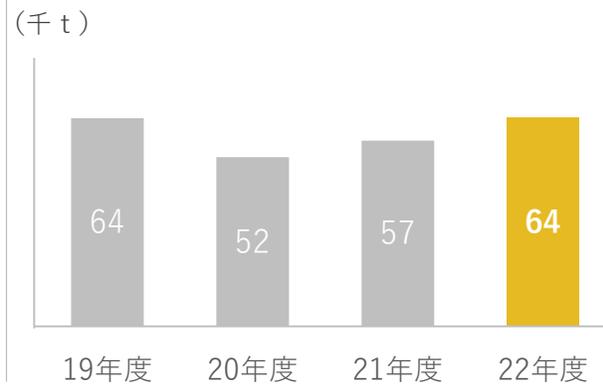
鋼 カンパニー

鋼材需要は旺盛



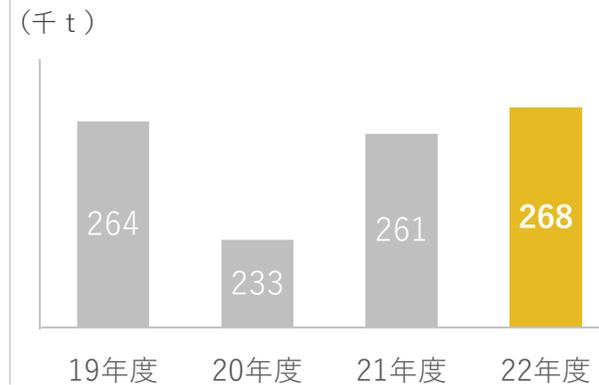
ステンレス カンパニー

需要回復傾向



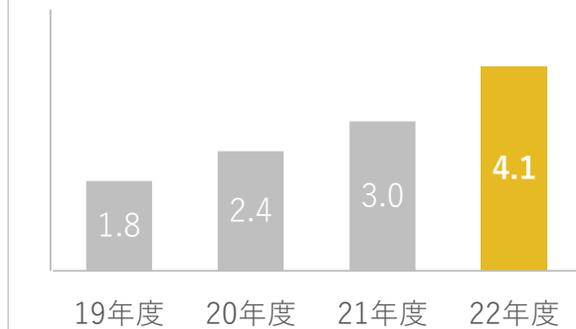
鍛 カンパニー

需要は旺盛



スマート カンパニー

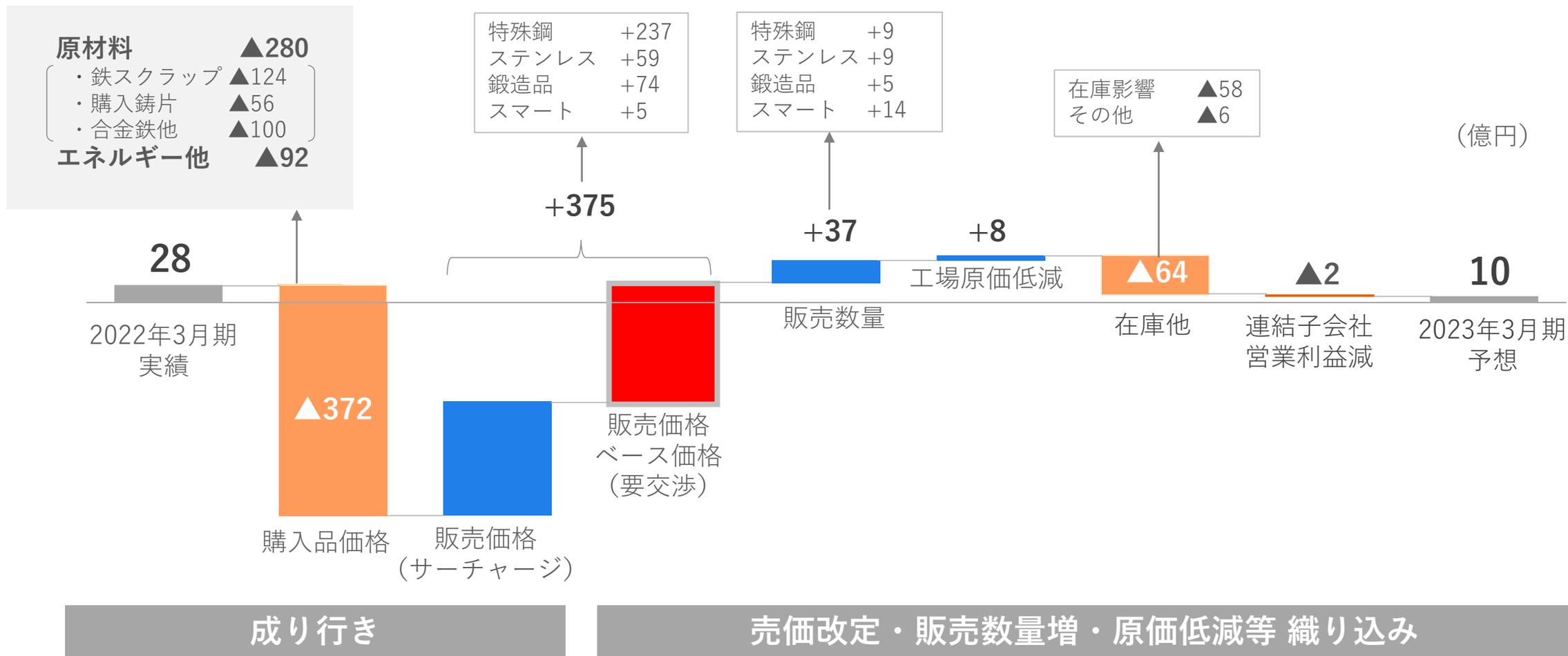
電子部品好調
パワーカード (百万セット/月)



購入品価格

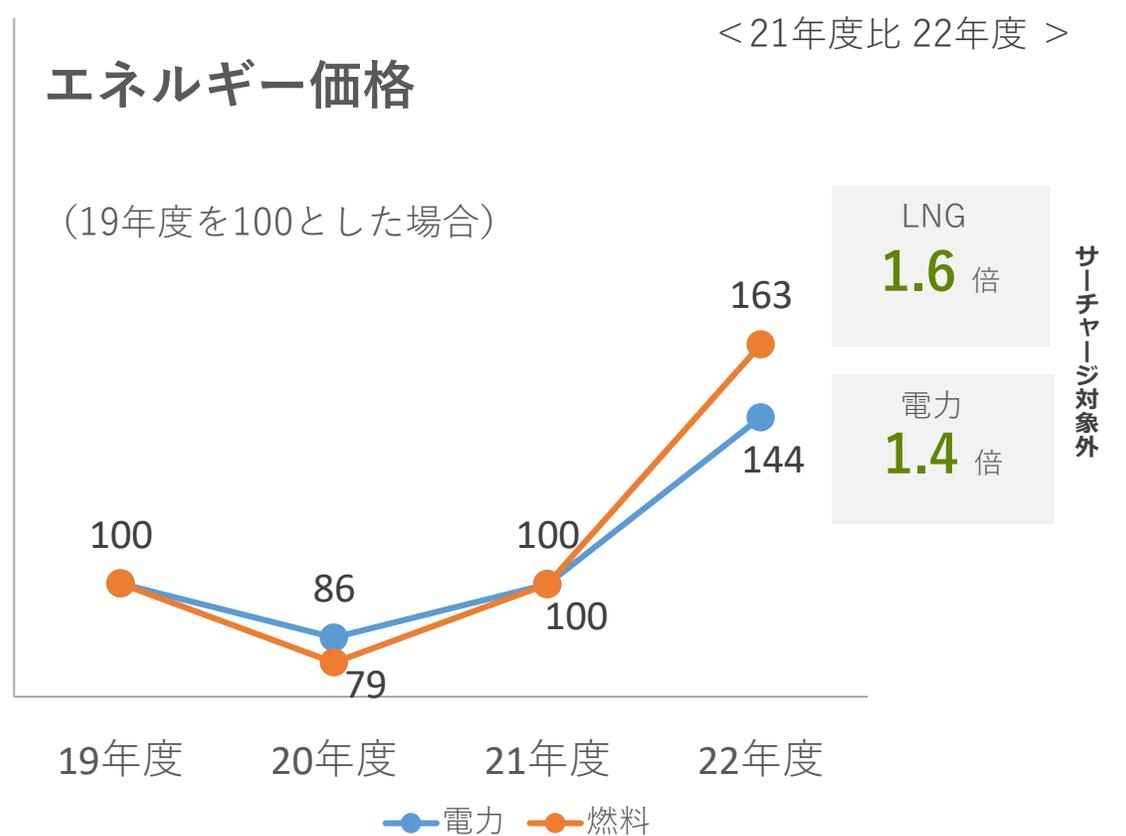
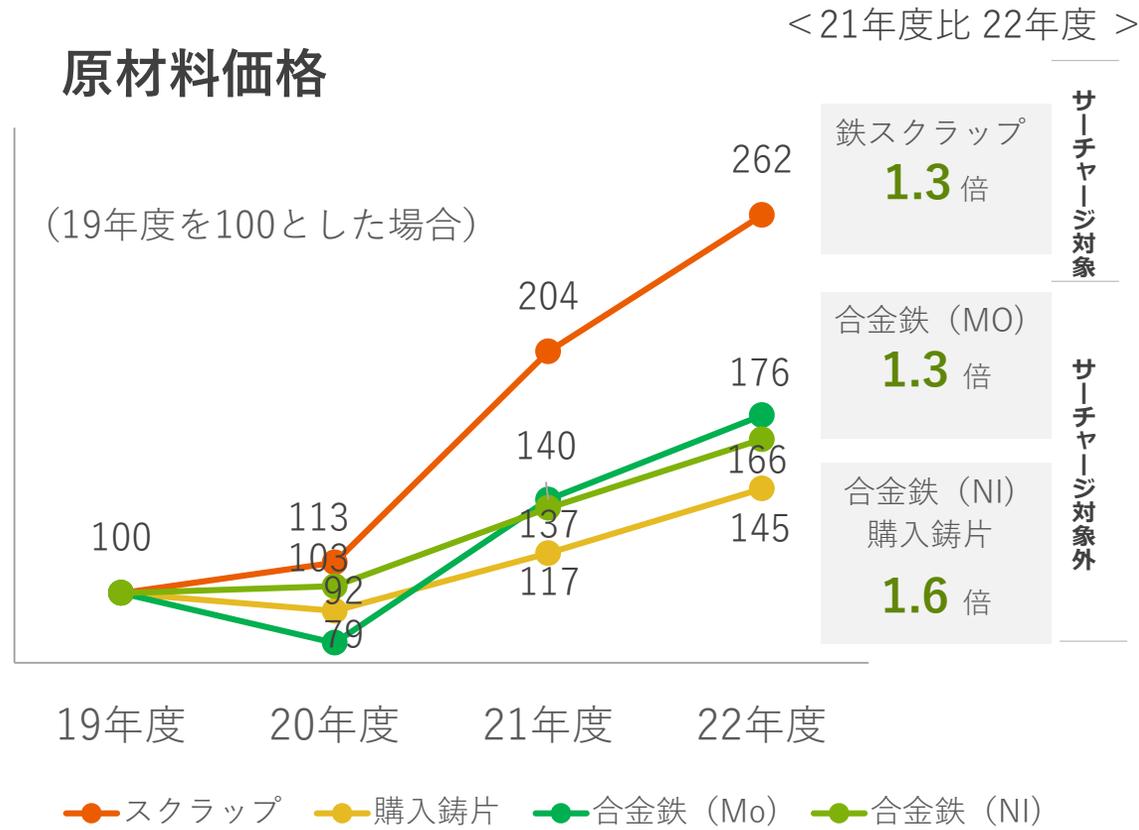
	22年度	参考
鉄スクラップ価格H2 (円/kg)	62.0	21年上：44.7 / 21年下：52.7
購入鋳片	値上がり	高炉原料の値上がり影響
合金鉄・エネルギー	軒並み値上がり	ニッケル、モリブデンなど合金鉄、電力、LNGなど

サーチャージ対象外である合金鉄・エネルギーなども高騰が見込まれる厳しい環境
社内努力に加え、販売価格への反映（ベース価格値上げ）により黒字確保を目指す



あらゆる購入品価格の高騰下、鉄源保管能力拡大による安価鉄スクラップの利用促進などコストミニマム調達を強化

購入品価格

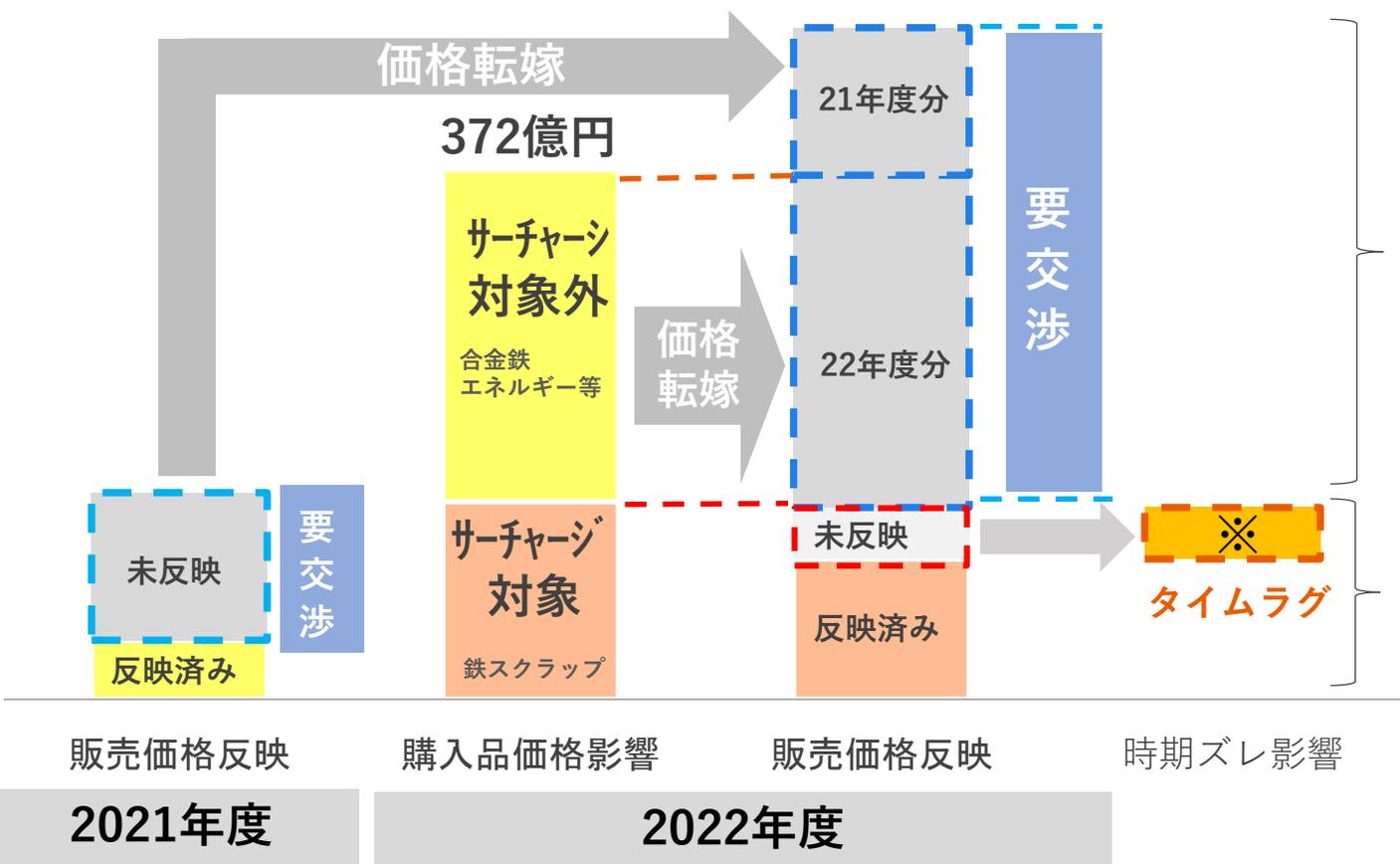


※サーチャージ対象・対象外は、お客様毎の取り決めにより異なることがあります

サーチャージ対象外は、販売価格への転嫁（ベース価格値上げ）
 サーチャージ対象は、サーチャージ価格反映期間の短縮

**お客様に必要性を
理解いただく活動を強化**

2022年度 購入品価格と販売価格の状況



● **サーチャージ対象外**
 購入品価格の値上り影響

→ 販売価格への転嫁（ベース価格値上げ）を進める

● **サーチャージ対象**
 ※タイムラグによる影響（約40億円）

→ サーチャージ価格反映期間の短縮を進める

事業基盤の強靱化に向けた活動

モノづくりの底力を引き上げる活動をステップアップ

モノづくり向上

要員・生産性マネジメントの充実による限量経営の進化

工程スルーでプロセス全体最適化し現有能力最大化

科学的アプローチによる課題の見える化と原単位改善

TPSを活用した徹底した生産性・仕事の質向上

部門間連携、プロジェクト活動の強化ゴール達成に向けた取り組みを推進

環境変化への対応

CASE

自動化・E-Axle・電動車部品などの事業化加速

CN

カンパニーの特色に応じた取り組みでCN工場化を推進

DX

暗黙知 → 形式知化のため業務とデータの整流化を推進

ベース：安全・品質の強化

『両利きの経営』の推進で年輪的成長につなげる → 8月に経営説明会（予定）

2023年3月期 通期 業績

鉄スクラップ価格のさらなる上昇に加えて、

サーチャージの対象でない購入品の価格高騰が見込まれる 厳しい経営環境

限量経営の進化で、モノづくりの実力を更に向上させるのと同時に、

販売価格の値上げを織り込んだが、前期比 **増収・減益** を見込む

『**自助努力を超える部分の価格反映の必要性**』を

お客様に丁寧に説明し、ご理解いただく活動に、

従来以上に力を入れて取り組み、**上積み**を図って参ります

配当金

当期末配当金は、既公表値どおり1株あたり 期末10円 通期30円とする
 2023年3月期 配当金は、中間期・通期ともに未定とする

(億円)

	2022年3月期		2023年3月期 (予想)	
	中間期	通期	中間期 (予想)	通期 (予想)
営業利益	28	28	/	10
当期純利益	12	9		0
配当 (円/株)	20	30		未定
配当性向 (%)	—	63.3%		—

ありがとうございました

愛知製鋼株式会社は本資料もしくは本資料に含まれる情報、ないしはそれに関連して生じるものの利用、誤用あるいは配布から生じるいかなる損失に対して一切の責任を負いません。

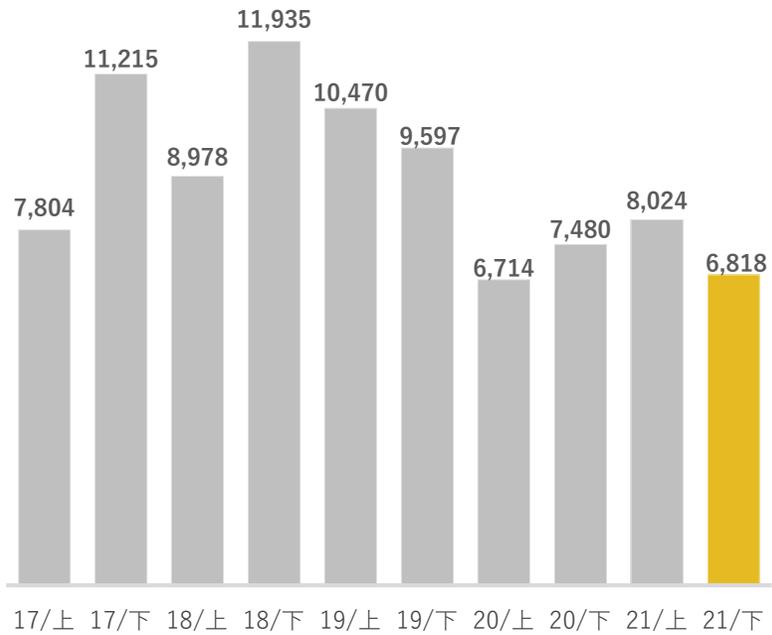
本発表において使用した資料に記載されたいわゆる「見通し情報」は、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

	売上高			営業利益				
	2022年 3月期	2023年 3月期	増減	2022年 3月期	2023年 3月期		増減	
					営業 利益率	営業 利益率		
鋼カンパニー	995	1,268	+273	▲65	▲6.6%	▲54	▲4.3%	+11
ステンレス カンパニー	363	443	+80	24	6.8%	21	4.7%	▲3
鍛カンパニー	1,030	1,158	+128	43	4.2%	19	1.6%	▲24
スマート カンパニー	189	237	+48	17	9.5%	16	6.8%	▲1
その他	22	24	+2	7	34.9%	7	29.2%	+0
合計	2,601	3,130	+529	28	1.1%	10	0.3%	▲18

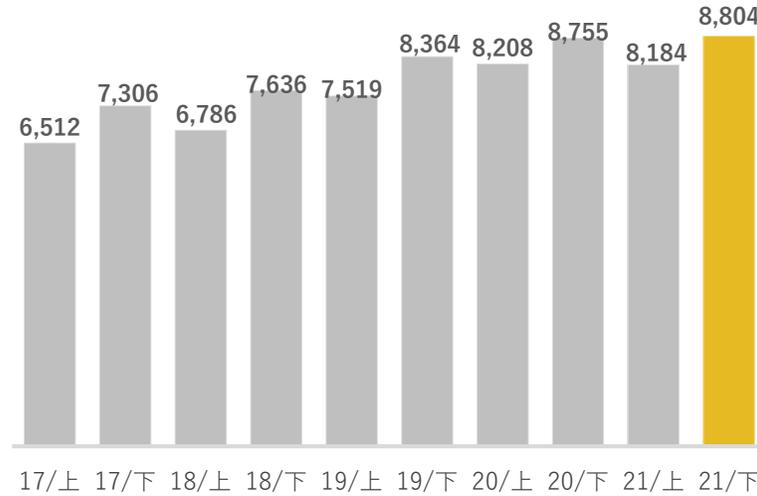
設備投資額

(百万円)



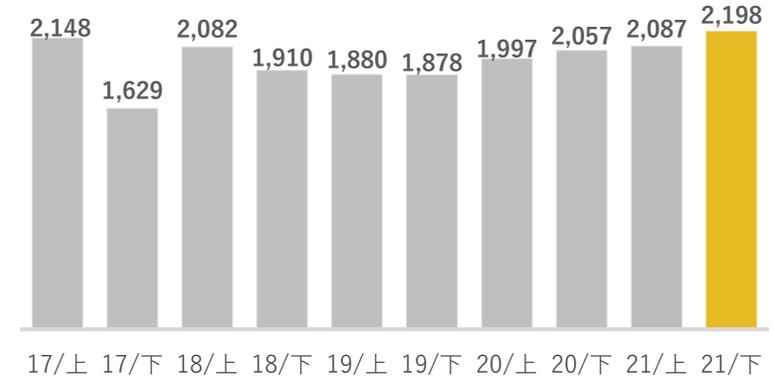
減価償却費

(百万円)



研究開発費

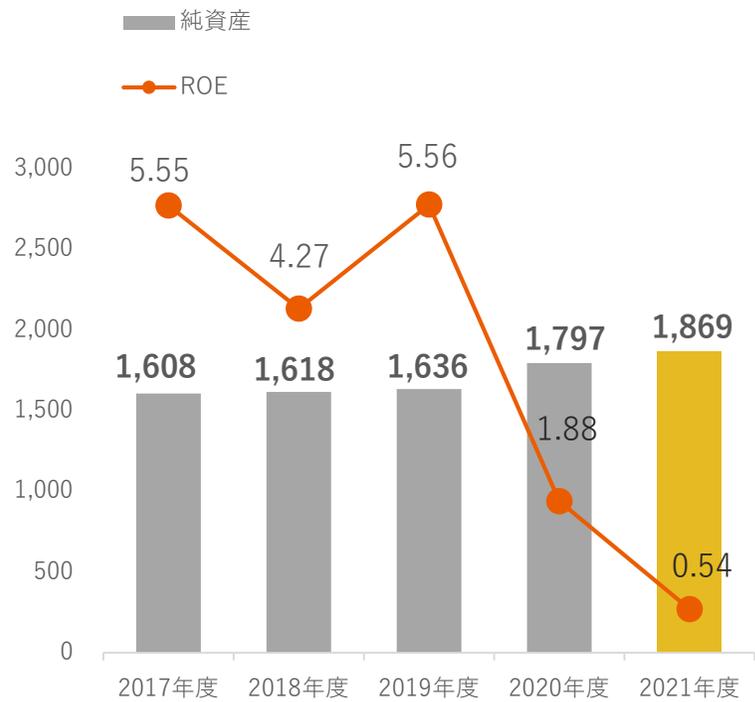
(百万円)



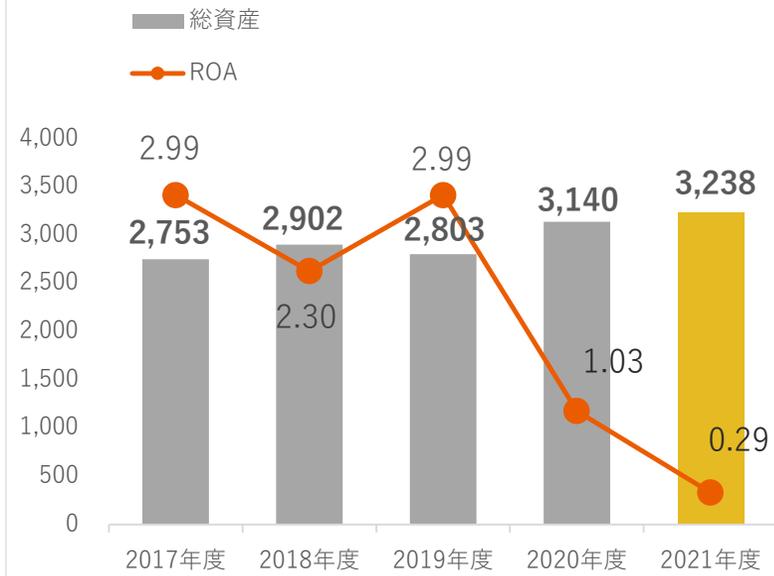
(億円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
営業活動による キャッシュフロー	131	135	363	147	38
投資活動による キャッシュフロー	▲ 209	▲ 197	▲ 245	▲ 138	▲ 148
フリー キャッシュフロー	▲ 77	▲ 61	117	9	▲ 110
財務活動による キャッシュフロー	▲ 95	90	▲ 32	141	▲ 113
現金及び現金同等物の 増減額	▲ 172	28	79	158	▲ 212
現金及び現金同等物の 期末残高	274	303	382	541	328

純資産・ROE (億円)



総資産・ROA (億円)



有利子負債・D/Eレシオ (億円)

